

風車

仁木町議会報告

—総務経済常任委員会—

「仁木町の風力発電を考える会」

宮下洋子

—6名の議員の巻—

風車問題は、3月22日、5月11日に引き続き、

第3回目の委員会（6月22日）

《出席者》

嶋田委員長・磨・木村・佐藤・野崎・上村・宮本各議員
横関議長（オブザーバー）

委員長は司会をして発言もできますが、議長は発言できません。

風車の地元、銀山の野崎明廣議員



野崎議員も、「仁木町の風力発電を考える会」の学習会に出席して下さっている方です

発言1 電磁波過敏症の経験から風車病を肯定

人、それぞれではありますが、私は車に乗ってクーラーを付けると、不快で気分が悪くなります。ですから、夏でも車に乗るときは、クーラーをつけず、窓を開けて乗っています。

科学的な因果関係は証明できませんが、クーラーを止めれば良くなるので、やはり、電磁波の影響はあるんだろうなと考えるわけです。

これは、風車の低周波と同じで、風車から遠くに離れば、症状が消えるわけですから、それを否定することは出来ません。

電磁波過敏症に個人差があるように、低周波にも個人差があり、人それぞれですが、ないという事にはなりません。

100人に一人でも、自分が影響を受けて初めて分かること。

それを否定するのはいかななものかと思います。

蘭越にすでに建った風力発電周辺の方たちの体調も、調査していくべきなんじゃないかと思います。

発言2 ここ数年で河川の整備が激増

銀山は土砂災害や地すべりが一番心配なところ。駅と余市側の間は1.5kmしかない。そういうところに風車が設置されて本当に良いのか。皆に考えてもらいたい。沢伝いや河川が多いところで、12カ所ほどある道道を走る川は山へと続いている。ここも土砂災害区域。5年間で31回整備しなければならぬ。銀山の川は地元の人たちによって整備されている。感謝しなければならぬ。

なぜ、そのような峰に工作物や道路を作らなければいけないのか。適用できる場所、出来ない場所があると思う。皆で一緒に研究、調査したい。

これまで3年に一回くらいだった仁木町の河川の整備が、急激に増えており、これはどういう事だろうかと考える次第です。明らかに異変を感じております。

?

因果関係ははっきりしないけれど、色んな工事が行われたりして、自然破壊が徐々に進んでいるのではないかと危惧する次第です。

★野崎議員にインタビュー

(宮下) 河川の整備とはどういうことをするのですか。

(野崎議員) 下流に土砂が堆積したり、水路が変わったりしたのを修復するのです。

(宮下) それは新幹線や高速道路の工事なんかの影響ですか。

(野崎議員) それもあるかもしれないけど、高圧電線の鉄塔が建った辺りからです。何が原因かとは言えないんですが・・・

(宮下) 今でもそんなことが起きているのなら、風車が建つとどんなになるか分からないですね。

(野崎議員) 本当にそうなんですよね。

発言3 生態系が変わってきた

私の方銀山では、生態系が変わってきて、鹿の群れが多くなってきている一方で、キツネは少なくなってきている。余市川では魚も蟹もいなくなってきている。川は汚れてきている。銀山には蛍を生息させようというグループがいる。自然を取り戻す必要性を感じる。

CO₂の削減は国の政策で取り組んでいるが、仁木町として森林伐採は、それ以上の悪影響なのではないかと思われる。そうならないようにきちんと検証したい。

発言4 福祉施設の隣接について

風車が建つと、人を守って行かなければならない立場の人たち、先生もまた大変になるのではと思う。何かあったら、施設や川に問題があると言われかねない。この地域には絶対あってはならない。

事業者にも町から訴えて欲しい。そのように、私たちも町側に訴えて行かなければならない。

○実体験に基づいた説得力ある発表、有難うございました。

上村智恵子議員



上村議員も、「仁木町の風力発電を考える会」の学習会に出席して下さっている方です

発言 1 低周波音、風車病について

「仁木町の風力発電を考える会」の学習会で、岩内の斎藤武一さんの紙芝居を見たのがきっかけで、低周波音の影響について知りました。

風力発電の先進地、寿都では、娘の友達が、風車の影響で仁木に引っ越して来ているという身近な問題として経験しています。

仁木に風車が出来ると、また、引っ越ししなければならないかもしれない。

発言2 福祉施設の隣接について

福祉施設にしている地域は、調査をするまでもなく外して欲しい。

発言3 土砂災害について

「仁木の風力発電を考える会」の先日の学習会で、岡村聡先生は、

「この一帯は、豊浜トンネルの事故の時にも、壊れやすい岩盤でできていたりした。火山灰が積み重なった崩れやすい地質で出来ている。地すべりマップにもすでに出ています。そこになぜ、大型風車なのか。このような科学的知見もしっかり考慮すべきだと思います」と言われています。

然別の浄水場の奥も川が汚れてしまいます。私たちに見えていない所だからといって良いわけはありません。

関電にしっかり言っていかなければいけません。

発言4 自然生態系への影響について

昔はアカゲラがいて、子育てに本当によいところだと思ったが、最近は見かけなくなった。然別では、ワシが蛇を食べていたりしたらしい。まだ、自然は残っている。自然破壊は人によって起きる人災です。止めることが出来るなら止めた方が良い。渡り鳥にも影響が出る。

風車が建つと、自然生態系全体が破壊されてしまいます。

風車建設には、強く反対いたします。

○私の記憶では、上村議員は、「野鳥の会」か何かに参加されていて、その勉強会にも出ておられるとの事でした。

佐藤議員もお話されていましたが、<バードストライク>のことや、絶滅危惧種のイヌワシが仁木の原生林に生息していることを御存じで、良く勉強されていました。

木村章生議員



発言1 自然生態系への影響について

風車が建たなくても、クマや毛虫や鳥は色々な周期で変わってきている。鳥については2か月に一回、私の耕作地に専門家が調査に来ている。専門家の意見を聞きたい。

発言2 土砂災害及び水質悪化について

送電線や高速道路の件もある。専門家の知恵や意見も聞きながら判断したい。

発言3 低周波音・風車病について

今後調査して考えたい。

発言4 福祉施設の隣接について

利用者に聞いて判断したい。

嶋田茂委員長



発言1 自然生態系への影響について

影響があると言えばあるし、ないと言えない。風車が建たなくても生態系の変化は出てきている。どのような建て方をするのか、きちんと説明を受けたうえで判断したい。

発言2 土砂災害及び水質悪化について

建設をどのようにするのかの説明は関電からもあったが、調査をしっかりと。水質悪化はある程度あるのかなとは思う。しかし今調査した中で、関電はもう一度説明をするという事だが、いい悪いの判断をするところまではいっていない。もう少し調査結果が出てから判断したい。

発言3 低周波音、風車病について

科学的に実証されていない中で難しいところ。

発言4 福祉施設の隣接について

何らかの懸念はある。でも実際にどういう被害があるのか、しっかり聞いたり調べたりしてみたい。健康被害については、私自身の中では科学的に実証されていない。建てる側がどのような建て方をするのか、きちっと関電からも聞いて判断したい。

宮本幹夫議員



発言 1 自然生態系への影響について

ここに、田舎の地域に私はずっと住んでいるが、ゲリラ豪雨や、余市側の反乱はあったものの、そこまでひどいものはなかったと記憶している。クマが出るなどの懸念については、事業者に養生(?)の仕方を伝えて、方法を取ってもらうなどすればよく、単にダメダメと言ってばかりでなく、そういう方法も考えてはどうか。

発言 2 低周波音、風車病について

低周波は風車のことだけなのか?道内の新幹線などはどうなのか。蘭越、寿都の住民の意見を聞く機会も大切ではないか。飛行機・自動車の騒音などはどうなのか。大多数が影響を受けるなら考える。

発言 3 土砂災害及び水質悪化について

然別の浄水場や銀山は地下水のくみ上げ、本町は町がやっているが、町の水道が引かれていない家もある。飲み水が一番大切。

今後、工事業者にはきちっと理解してもらって進めてもらう事だ。国道5号線から赤井川地区までは、約10kmある。何が何でも中止と言うのではなく、斜面、カルデラ、水が柔らかいなど、事業者に懸念を伝え、対策を打ってもらった中で、反映されていないようであれば要望し、分かりやすく理解してもら

えるように努力すべき。

発言 4 福祉施設の隣接について

かつては福祉の町と呼ばれたりもした。

風車から 1.5km 離れることが基準なのか知らないが、何がどういう風に影響するのかを調査・研究・専門家の意見を聞かないと。

きちっと整理して、皆さんの町で判断すべき。

町内会での説明はあったが、もう少し勉強させてもらう機会がないと。

まる **磨直之議員**



発言 1 自然生態系への影響について

判断基準が明確化されていない。なので、信頼できる情報を持って議会で議論すべき。何をを持って生態系破壊なのか、この主題については、財団法人の日本自然保護協会が専門であり、彼らによれば、自然度 9・10 であるから保全が必要だと述べている。

関電は、昨年 12 月の説明会で、調査して、本当に自然度 9・10 であれば計画を止めるとしている。

発言 2 低周波音、風車病について

低周波被害についても、政府も、関電も科学的に因果関係がないと言っているのに、なぜ反対するのですか。

発言3 土砂災害及び水質悪化について

小樽もこの点について懸念があった。仁木もあるが、これについては前述の①や②とは異なり、技術も進んでいるので、きちんと対応してもらう事は可能ではないか。

発言4 福祉施設の隣接について

なぜ、陳情書の4項目に、銀山の「養護施設」や「障害者施設」だけを特定して入れたのか、疑問に思います。

特に社会福祉施設に限ったことではないので、これまでの①～③で述べた通り。

議会の雰囲気

熱心な議員さんたちが発表しているのに、反対を向いていたり、無視して隣の人と話していたり・・・住民や、道新、北方ジャーナルの記者さんたちも傍聴しているのに、あまりの態度に、みんなイライラしていました。

議会休憩中の出来事

会議が始まる前に、傍聴者の中に、録音しようとしていた人がいて、議員から注意を受けて退場になりました（議会事務局の人が、途中で中に入れてくれました）

ところが、議会が休憩に入った時、また、前述の議員が傍聴席の所まで来て、録音していないのに、酒井さん（考える会の事務局）が叱られました。酒井さんは、議会が始まる前に録音しようとした人の代わりに何度も謝ったのに、今度は傍聴に来ていた大野元町会議員に「なぜ、指導しないんだ」と、矛

先を変えて攻撃してきます。

そのあまりにしつこく高飛車な態度に、傍聴していた人たちの不満が爆発してしまいました。本人は言うだけ言うとさっさと退場してしまったのですが・・・
(数名の議員が残っていました。)

- ◆「傍聴が初めての人もあるんだから、議会室の前に張り紙しておいて下さいよ」
- ◆「始まる前に議会事務局の人が説明するべきじゃないか」
(実際には見に行ったら小さく張り紙がありました)
- ◆「風車の問題について議員さん同士が議論すると聞いてきたのに、一方的に意見を述べるだけで、議論にも何にもなってないじゃないですか」
- ◆「これから勉強しますって、この一年間何をしていたんですか。
議員の資格なんかないですよ」

★今回は議事録を見てないので正確性に欠ける部分があるかも知れません。
もし、間違っていたら、ご連絡下さい(複数の会員のメモから起こしました)。
次回のチラシで訂正させていただきます。

以上、ありのままの議会報告でした。

★お詫びと訂正

前回、佐藤議員の発言の所で、大切なところで誤りがありました。下に訂正させていただきます。○の部分は私の書いた文章だったのですが、確認不足でした。お詫び申し上げます。



発言 1 風車は火力発電で動いている (○は宮下)

風車は火力発電等のバックアップ電源がないと始動したり、風向きに合わせて、羽根（ブレード）の向きを変えたり止めたりなどの操作が出来ないし、外部電源なしで発電するには毎秒 14.5～15m 以上の嵐なみの風が必要です。北電に聞くと、風速については多少ズレがあったものの、

外部電源の必要性は否定しませんでした。

○その証拠に、かつて北海道がブラックアウトになった時、風車もソーラーも働きませんでした。

○仁木の年間平均風速は 2.3m で、この 10 年間で 1.5 m 以上の風は 1 回しかなかったそうです（札幌管区気象台）

○2.5 m 以上になると羽根が飛んだり、火事になったりして危ないので止めるのですが、それにも火力の電気が必要なので、こんなに効率の悪いエネルギー源はありません

※下から 5 行目と 3 行目の風速（赤字）を訂正いたしました。